



英語の教科化へむけて

新聞やテレビで取り上げられているように、文部科学省は国際化する社会にこどもたちが対応できるよう英語教育の改革を進めています。昨年「英語教育改革実施計画」が公表され、**小学校でも英語活動から教科としての英語へ変わろうとしています。**

具体的には、英語に慣れ親しむことを目的とした英語活動から次のように変わります。

【小学校中学年】

- 週1～2時間程度
- コミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心に指導する

【小学校高学年】

- 週3時間程度
- 読むことや書くことも含めた初歩的な英語の運用能力を養う

【中学校】

- 身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
- 授業を英語で行う事を基本とする

【高等学校】

- 幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、ある程度流暢にやりとりできる能力を養う
- 授業を英語で行うと共に、言語活動（発表、討論、交渉など）を高度に行う

世界の人と交流を深め、世界の平和や環境、**人権や世界の人々の幸福について地球規模で考える時代**が訪れようとしています。そんな世界の中で、日本のこどもたちが大きな役割を果たしてくれたらうれしいです。そのために、世界の人達とコミュニケーションを行う言語が必要とされているのです。

しかし、英語ができるようになればすべてが解決するのかというとそうではありません。英語はあくまでも手段にすぎないからです。大切なのは何かというと

- 自分を理解し、自分の事を伝えること
- 相手を理解し、違いを認めあうこと

自分とは何なのか、どんな文化の中で育ちどんな考え方や価値観を持っているかを明確にして伝えること。相手のことを理解し、違いを認め合ってお互いを大切にすることが**国際化する社会の中で生きる最初の一步**なのだと思います。言語は手段です。英語を学ぶことが目的化して、本当のねらいを忘れてはいけません。

振り返って、コミュニケーションの基本である日常のあいさつはどうでしょうか。できないようでは英語以前の問題です。算数や社会など自分とは何かを学ぶ学習を粗末にするのも問題外です。国際化は始まっています。まず、**足下をきちんと見ることから始めたい**ものです。

【わたしたちの羽合小学校では】

5～6年生の英語の教科化は平成30年度から実施する予定でこれからの3年間準備を進めます。また3～4年生については平成32年から実施する予定です。お楽しみに。

羽合小学校 寺谷英則